

ハンドボール

特集

第14回 男子アジア選手権

第18回 JOCジュニア

オリンピックカップ2009

平成22年度日本協会事業計画

3・4 5

MAR.APR.2010・No.508



[表紙写真：第14回男子アジア選手権・末松選手：写真提供・久保弘毅氏]

molten[®]
For the real game



For the real game

「プレイヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」

私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに

世界に類のないボールと

スポーツエキップメント・メーカーとして

つねに完璧な製品づくりを目指しています。

日本リーグ唯一の公式試合球
全日本実業団連盟主催大会
唯一の公式試合球

H312 ヌエバ 国際公認球 検定球
縫い・人工皮革、3号球、ラテックスチューブ
H212 ヌエバ 国際公認球 検定球
縫い・人工皮革、2号球、ラテックスチューブ



www.molten.co.jp

株式会社 **モルテン** 東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川五丁目5-7

総力を結集して… 「世界を奪い返す」



(財)日本ハンドボール協会会長 渡邊 佳英

昨年度、5月に開催しました第2回日韓代表国際交流戦では、女子代表チームが韓国に勝利し、12月に中国で開催されました第19回女子世界選手権に挑んだものの16位に終わり、満足する結果とはなりませんでしたが、男子においては、アジア王者奪還を目指し、2月に開催されました第14回男子アジア選手権に挑みましたが、世界選手権の出場権は獲得したものの結果は3位と、こちらも満足する結果とはなりませんでしたが。そこで今年度、日本ハンドボール協会は、強化活動に全てのベクトルを合わせ、最大の目標であるオリンピック常時出場、世界選手権常時出場、そしてメダル獲得の実力をつけるべく総力を結集し、まずは、来年1月にスウェーデンにて開催されます第22回男子世界選手権上位入賞を目指し取り組んでいきます。さらにハンドボール競技の注目度アップ、競技人口アップ等に向け以下の内容について総力を挙げて活動していきます。

強化については、代表チームに特化し、「世界を奪い返す」、「アジアNo.1に返り咲く」ために全力で取り組みます。また、NTS（ナショナルトレーニングシステム）をより活性化させ、「JHA ジュニアアカデミー」の充実によるジュニアからの強化の加速と指導方針の一本化を徹底します。さらに指導者スタッフの育成にも取り組みます。審判についても継続的な育成、指導能力アップはもちろん、「ヤングレフェリーの育成」を最重点に取り組みます。

指導普及は、「普及活動事業」と「指導者育成事業」を2本柱と捉えて取り組みます。また、「小学生・中学生大会の拡大」、「NTSとの連携・周知徹底」、「マスターズ大会の組織充実」、「車椅子大会の充実」等に取り組み、競技人口アップにつなげるとともに「ビーチハンドボールの組織化、大会充実」に改めて取り組み、新しい展開に備えます。

マーケティング・広報は共に連携し、より効果的な広報とバリューアップ活動によるハンドボールの注目度アップ、バリューアップに取り組み、スポンサー獲得を目指します。

競技は、「大会運営マニュアル」を基本に各大会に積極的指導を行い、各担当部門および各都道府県協会とも連携した皆さんの皆様に満足頂ける大会運営に取り組みます。

日本リーグの充実、強化に直結します。日本のトップゲームをたくさんのファンに披露するために「プロの興業集団」を目指し、昨今の社会情勢の変化に対応するため引き続き「新ディビジョンの拡大・育成」に取り組みます。

国際については、国際ハンドボール連盟およびアジアハンドボール連盟の新体制に対応し、「アジア地域の発展」をベースに行動を展開します。引き続き「アジアの正常化」に向け東アジアハンドボール連盟との結束を更に強固にし、IHF、AHFに従来からの提案や新しい提案を投げかけ、オリンピック出場に向けて道を開く活動を続けます。

総務は、事業を滞りなく実行するために、役員の育成・充実と事務の整備に取り組み、財務については、政治、経済、社会的価値観等の前代未聞の激変を踏まえ、収入源を想定した全く違う観点での予算の執行を考え実行します。また、環境問題についてハンドボールとして具体的に実行・活動し、積極的に取り組みます。

総合企画については、事業計画の徹底と中期スケジュールを見据えた事業計画を検討し、ジャパンカップ2010を企画開催します。また、組織活性化プロジェクトとして、社会人連盟を設立し、今後のハンドボール協会の基盤の充実を計ります。

がんばれ20万人会は、本来の目的を踏まえ、諸策を見直し20万人を目指します。

以上、今年度も皆様の幅広いご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

第14回

男子アジア選手権 (2011年男子世界選手権予選)

日本3位、
第22回
世界選手権
出場権獲得!



「第14回男子アジア選手権」写真提供：久保弘毅氏

〈最終順位〉

優勝	韓国
2位	バーレーン
3位	日本
4位	サウジアラビア
5位	カタール
6位	シリア
7位	イラン
8位	レバノン
9位	中国
10位	イラク
11位	UAE
12位	ヨルダン

総評

日本団長 西窪勝広

レバノン・ベイルートにて12カ国が参加し大会が開催され、日本は3位で終了し来年の世界選手権出場権を獲得できました。

1. テクニカルミーティング (酒巻ヘッドコーチ、中山コーチ、近藤総務)

※西窪、オブザーバー参加

① AHF Technical Committee

※ Theyab(KUW) ※ Abu Al_Laif(KUW) ※ Ra ee(SYR)
※ Anand(IND) ※ Al_Enanzi(KUW) ※ Samha(SYR)
※ Talab(BRN) ※ Sukumolnan(THA) Alzahrany(KAS)
※ Goto(JPN) ※ Tawakoli(IRI) AHF 審判長

② IHF Technical Committee ※ Ramon Galego(ESP)

③ AHF Referees

※ IRI ※ JPN ※ CHN ※ KOR ※ QAT ※ BRN ※ UAE ※ LIB

④ IHF Referee ※ SLO

2. IHF Galego

①ハンドボールが大変悪いイメージとIOCから指摘を受けている。このままではハンドボール自体がオリンピックから外される危機感を全員が持って欲しい。IHF管理下で公平且つフェアな運営を実施する。

①-1 過激な演技は強く罰する

※チャージを取る演技 ※7mを取る演技

①-2 首から上のアタックに対する判定を厳しく

※退場か失格

3. AHF Theyab

①コート上で過激な演技は必要ない。演技は劇場かその他の場所だと強い口調で発言があった。

4. 運営

IHFの元、レフェリーも世界選手権にノミネートする選考会に位置付けられ、Galegoの下でSLOのレフェリーが中心となり、公平な基準で運営され、各国の選手も素晴らしいプレーに集中できた。特に1時間10分で試合が終了するように立会人にも強く指導されていた。過激な演技、時間稼ぎにはイエローカードが出された。

本当に時間内で試合が終了していく状況を見てるとスピード感あふれるハンドボールが再確認できた。

このままアジアが正常化に進むことを願ってならない。

【総評】

大会運営は、レバノン協会が不慣れではあったが順調に実施された。常にレバノン協会の会長が陣頭指揮を執り、観客

参加名簿

役職	名前	所属
団長	西窪 勝広	(財)日本ハンドボール協会
監督	酒巻 清治	(財)日本ハンドボール協会
コーチ	中山 剛	(財)日本ハンドボール協会
ドクター	沖本 信和	沖本クリニック
トレーナー	赤尾 和彦	トレーナーズ・フォー・アスリート
情報・分析	舍利弗 学	学校法人 福島高等学校
総務	近藤 恒俊	(財)日本ハンドボール協会

	背番号	名前	所属先
CP	2	豊田 賢治	大崎電気
CP	4	前田 誠一	大崎電気
CP	5	末松 誠	大同特殊鋼
CP	6	富田 恭介	日本ハンドボール協会
CP	7	宮崎 大輔	アルコベンダス
CP	8	武田 享	大同特殊鋼
CP	9	永島 英明	大崎電気
CP	10	岸川 英誉	大同特殊鋼
CP	11	信太 弘樹	日本体育大学
GK	12	高木 尚	大同特殊鋼
CP	15	森 淳	大崎電気
GK	16	松村 昌幸	湧永製薬
CP	19	猪妻 正活	大崎電気
CP	20	門山 哲也	トヨタ車体
GK	22	坪根 敏宏	トヨタ車体
CP	23	東長濱 秀作	湧永製薬
CP	24	野村 喜亮	大同特殊鋼

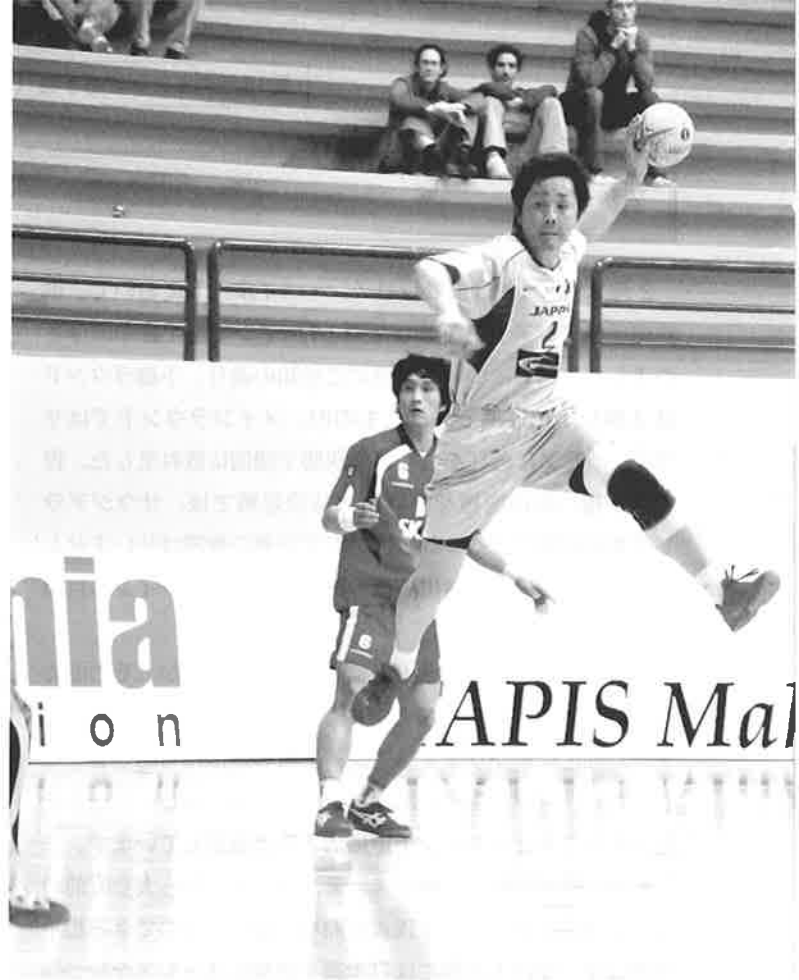
が騒ぎ出すと自ら観覧席にいき、軍警関係者と共に鎮静に向けた行動を執り、大きな問題もなく終了した。

在レバノン日本国大使館からも、チームに激励の言葉を頂き、日々、ご家族を含め応援に駆けつけて戴きました。レバノン日本国大使館からは、細かく治安等の連絡を取って戴き、安心して試合に集中できたことに感謝しています。

強化本部長に就任し「アジアNo.1に返り咲く」為に何をすべきか投掛け、各カテゴリーで韓国に勝つか、それに等しい試合をしなければならぬと、問題提起をしてきた。今大会に関しては、2週間に亘る大会ではあったが、強化の意図をスタッフが理解し取り組んでくれた。予選リーグ1位で通過し、本戦ラウンドではサウジアラビアに破れ、A組2位で決勝に進みベスト4に残ることができた。しかし世界選手権に出場するためには3位以内に入ることが条件であった。

準決勝の宿敵韓国との戦いでは、素晴らしいスタートを切ることができたが、基本的なミスから韓国に得点され課題を残す戦いであった。

3位決定戦は再度サウジアラビアとの戦いとなり、中1日置いて、韓国戦の反省そしてサウジアラビア戦の対策を細かく分析し試合に臨んだ。開始から終始日本リードの展開で進み、前半2点リードで終了。しかし、後半開始から単純なミスが出始めリードされる局面があったが、大型の選手に果敢にアタックするDFで厳しい局面を乗り切り、延長戦でも怯むことなく、闘争心溢れるプレーで延長を含む70分の死闘を演じ、世界選手権の切符を3大会ぶりに獲得できた。



2年前の「中東の笛」の再試合から、酒巻ヘッドコーチが戦う体力強化を重点項目においた成果が現れた試合内容であった。しかし、アジアNo.1に成る為には韓国戦の敗戦を深く反省し、今以上の闘争心溢れる戦いの出来る体格・体力強化を日本代表だけではなく、男女共に底辺から再強化する必要性を強化本部長として痛感している。

この大会でアカデミー生の野村、信太の2名が参戦し、物怖じしない活躍してくれた。アカデミー事業が少しではあるが成果が表れ、今以上の底辺育成に重点を置いた強化に努めていく必要性も再確認できた。

酒巻ヘッドコーチに関しては選手個々の能力を遺憾なく引き出し、支えるスタッフとのコンビネーションも評価に値する。同様に分析、ドクター、トレーナーと役割が明確であり選手が戦える環境を整えたことも今回の成績にも結びついたと感じる。

まだまだ課題は山積しているが、日本の忘れかけている「機動力」の原点を今大会で私自身再確認できた大会でもあった。

報告にあたり、今大会は本当に色々な方々のお力で乗り切ることが出来ました。選手所属チームそしてスタッフの所属会社に一ヶ月間、日本代表活動にご協力頂いたことが、今回の成績に結び付いたと感謝致しております。

オリンピックに出場するには、色々な山を越えなければなりません。各チームのご協力無くしては日本代表活動は出来ません。今以上のお力をお貸し頂きますようお願い申し上げます。改めて関係各位に御礼申し上げ報告といたします。

報 告

代表監督 酒巻 清治

2月3日～19日までレバノン・ベイルートにおいて、世界選手権アジア予選を兼ねた第14回アジア選手権が開催されました。結果については既にご承知の通り、予選ラウンドは2勝し1位通過であったものの、メインラウンドではサウジアラビアに苦杯をなめ、準決勝で韓国に敗れました。世界選手権への出場権を懸けた3位決定戦では、サウジアラビアを延長戦でリベンジし、アジア王者の奪還は叶いませんでしたが、世界選手権出場権の獲得という最低ラインの目標はクリアできました。

ロンドンオリンピック出場は命題ではありますが、その間に行われるアジア選手権での好成績と世界選手権への出場は、チーム強化に繋がります。アジア王者奪還は持ち越しとなりましたが、世界選手権に出場し世界の強豪と厳しいゲームを経験することはロンドン予選に活きると確信しています。

8月の欧州遠征(フランス・デンマーク)から大会直前のフランス遠征まで、日本代表が簡単に勝つことのできる相手を選ばず、受け入れ側には日本選手が常にストレスを持つ強豪を準備して欲しいとお願いをしました。その結果、当初不安視していた大型ポストプレイヤーに対する守り方は格段に成長しました。どのようなDFシステムを組んだとしても簡単にポストプレーさせては到底勝ち目がなく、大会期間中を通して安定したDF力を発揮できたことは、この部分の成長が大きく作用したものであります。

しかしながら課題も多く在ります。DFについても別システムへの変化や、個人の判断による瞬時の対応力は十分ではありません。OFにおいては、ミス発生を恐れたことと個人技に頼りすぎたため、従来持ち合わせていた素早いパスワークが鳴りをひそめ、全員の機動力を効果的に活用することができず、悲観的にならざるを得ない状況も在りました。様々なゲームの局面に於いて、未だ充分ではなく、勿論理想を言えば切りがありませんが、理想を具体的な目的として捉えることができるだけの徹底した強化が必要であり、確実に日本

の武器となるよう努力して行かなければなりません。

今大会の参加国とIOCからの制裁措置中であるクウェートを含めた国が、ロンドンへのアジア予選でもあいまみえることとなります。各国とも、2年前と比べ様々な取組みをしています。イラクはスポーツを国復興の具体的手段と捉え、大会期間中は行政関係者が常に帯同し、長期計画を策定しています。地元のレバノンには国内リーグが存在し、1部リーグは10チーム、2部は8チームで構成され、代表の強化としてトルコ・サイプロス・チュニジアに頻繁に遠征を重ねているようです。サウジアラビア・UAE・カタール・バーレーンは外国人コーチを有し、シリア・イラン辺りは、ジュニア層の育成が順調のようであり、今大会には間に合いませんでしたが、今後日本にとって脅威となるのは間違いありません。今回日本代表に唯一学生界から信太(日体大)を選考しました。これは、偶々彼の調子が良いとか将来有望だからというだけではありません。ジュニア時代から代表経験は豊富であり、中東において辛い思いを何度も経験していること、ジュニアアカデミーで代表として心構えを教育されていること、などジュニア時代からの強化が実った例であります。各国の代表強化に対してどのように対抗していくのか、私は信太や元木(藤代紫水)あたりはモデルケースになるのではないかと考えています。2年振りにアジア連盟の大会に参加し、ある程度の「事」は承知で臨みましたが、いらぬ世話でありました。今大会が今まで苦しく辛い時間を過ごした我々の先輩や同僚たちに、「改善された」と言えるスタートであって欲しいと願い、選手たちは十分その期待に添う行動を示してくれました。大変誇りに思います。

大会準備から様々な方々にご協力頂きました。この場をお借りし御礼申し上げます。皆さんの力がなければ世界への道は開けませんでした。道半ばでは在りますが、今後とも引き続きご支援・ご声援頂きますようお願い申し上げます。簡単ではありますが大会の報告とさせていただきます。有難う御座いました。

OSAKI



mind

豊かな明日を切り開く、大崎マインド。

限られた資源だから、有意義に使っていききたい。

命あるものたちが共存する地球だから、

快適な環境を守っていききたい。

計測・制御の専門メーカーとして時代をリードする大崎は、

ユニークな発想と探究心で省エネ、省力化機器など、

つねに技術革新をこころがけています。

大崎電気工業株式会社

本社 〒141-8646 東京都品川区東五反田2-10-2 東五反田スクエア
TEL.03-3443-7171(代表)

アジア選手権を終えて

代表キャプテン 末松 誠

2月6日～19日に中東(レバノン:ベイルート)でアジア選手権が開催されました。

今大会は2011年男子世界選手権の出場権をかけた大会ですが、男子日本代表の目標は世界選手権の出場権獲得ではなく、アジアチャンピオンという目標を掲げ大会に挑みました。

しかし、結果は目標であるアジアチャンピオンには届かず、残念ではありますが3位でした。

予選のグループリーグでは、2戦2勝で1位通過を決め、本戦ラウンドへ出場しました。

ここではサウジアラビアに敗れたものの準決勝へと駒を進め、対戦相手となったのは宿敵韓国でした。アジアの頂点に立つためには必ず勝利しなければならない相手でしたが敗戦に終わってしまい、3位決定戦でサウジアラビアと世界選手権の出場をかけて戦う事となりました。

目指すべき所はアジアチャンピオンでしたが、準決勝で韓国に負けてしまった以上、最低ラインである3位に入賞し、必ず世界選手権への出場権を獲得しなければなりません。

チーム一丸となり、日本のハンドボール界のためにも絶対に負けられない覚悟で戦った3位決定戦では延長戦で何とか粘り勝ち、世界選手権への出場権を獲得しました。

この結果を受けて、私達日本代表は「どうすればアジアでチャンピオンになれるのか」また「世界基準のハンドボールを実践するにはどのようなトレーニングをすればよいのか」を選手一人ひとりが考えなければなりません。そして、次のロンドンオリンピックでは、アジア予選通過という目標は勿論の事、オリンピックという大舞台で世界の強豪国相手に堂々と戦える日本代表を目指していきます。

今回、アジア選手権に、現地まで応援に来てくださった日本の皆様、そして日頃から私達ハンドボール選手を応援して下さいるサポーター、ファンの皆様には心から感謝しています。

皆様の期待に応えられるように、常日頃から切磋琢磨し、世界を脅かす日本代表になっていきます。

これからも暖かいご声援を宜しくお願い致します。



	大規模・高速・高効率	IPS	三菱重工パーキング
		インテグレートッド パーキング システム	三菱立体駐車場
三菱重工パーキング株式会社 〒220-8401 横浜市西区みなとみらい三丁目3番1号 TEL.(045)200-7518			

戦評

▼予選ラウンド第1戦 (2月7日)

日本 35 (19 - 13、16 - 8) 21 イラク

幸先の良いスタートを切りたい日本は、宮崎・末松の連続速攻で2対0とすると、GK高木も好セーブを連発し、開始5分で5対0とする。6分過ぎに武田の顔面に相手の肘が当たり、負傷退場するアクシデントもあったが、交代して入った門山がカットインを決めるなど、波状攻撃で14分、12対5とリードする。中盤以降も宮崎・野村らの連続得点で15対7とリードを広げる。しかし20分過ぎに日本が退場者を出すと流れが変わり、3連続失点で16対12と4点差に詰められる。しかし27分、イラクに退場者が出ると門山・猪妻らの得点で加点し、前半を19対13で折り返す。

後半、負傷退場から戻った武田がミドルシュートを決め20点目。高木と交代して入ったGK坪根も相手のシュートをシャットアウトし、12分で23対16とする。14分には代表デビューの日体大・信太が速攻を決め、東長濱・豊田・岸川と5連続得点で28対16としさらにリードを広げる。その後も宮崎・東長濱らがパスカットから速攻を決めるなど、着実に得点を重ね35対21で勝利した。

【得点】9点：宮崎、4点：豊田、信太、門山、3点：末松、東長濱、2点：武田、岸川、猪妻、1点：富田、野村

▼予選ラウンド第2戦 (2月11日)

日本 31 (16 - 12、15 - 15) 27 バーレーン

日本は立ち上がりから宮崎・富田・野村らで得点し、5分まで4対4。6分過ぎバーレーンに退場者が出ると武田・豊田が連続得点を決め6対4とする。さらに16分、相手のパスミスで門山が持ち込み10点目を決めると、GK松村の連続セーブから武田・末松がゴールし12対8とリードする。さらにリードを広げたい日本だったが肝心のシュートがなかなか決まらず、前半を16対12で折り返す。

後半、岸川・豊田らの得点で20対14と6点差をつける。このリードを保ちたい日本は富田・永島のポストシュート、宮崎の豪快なミドルシュートなどで、20分まで28対24とリードを保つ。その後も信太のミドルシュート、末松の技ありステップシュートなど加点していく。試合終了間際にはGK坪根が7mスローを阻止すると、東長濱がダメ押しのカットインを決め31対27で勝利し、本戦ラウンドへB組1位で通過した。

【得点】7点：宮崎、5点：豊田、4点：末松・武田、3点：富田・野村、1点：永島・岸川・信太・門山・東長濱

▼本戦ラウンド第1戦 (2月13日)

日本 29 (15 - 10、14 - 10) 20 カタール

メインラウンドの初戦、両チームとも緊張からなかなか得点を奪うことができず、4分間無得点で試合は進む。ようやく4分過ぎに野村のミドルで先制すると、豊田・宮崎が得点し3対1とする。さらに宮崎の連続ゴールで5対2。11分、日本が退場者を出す間に5対4とされるが、すぐに豊田の7mスロー、宮崎のミドルシュートで7対4とリードする。中盤以降も富田・宮崎が連続速攻を決めるなど、日本のペースに持ち込む。ディフェンスでは武田を中心とした6-0が機能し、相手のポストパスをことごとくカット。GK高木もノーマークシュート、7mスローの阻止など日本のピンチを救う。残り10分を切っても末松・岸川・宮崎・末松と4連続ゴールが決まり、前半を15対10で折り返す。

後半も攻撃の手を休めることなく、武田・門山・末松らの連続得点で17分に22対12と最大10点差をつける。中盤以降も信太のミドル、永島が得た7mスローのチャンスを前田が決めるなど、着実に加点して行く。最後は残り2秒、猪妻がダメ押しの速攻を決め、29対20でメインラウンドの初戦を勝利した。

【得点】7点：宮崎・末松、3点：豊田、2点：前田・岸川・信太・門山、1点：富田・武田・猪妻・野村

▼本戦ラウンド第2戦 (2月14日)

サウジアラビア 28 (15 - 12、13 - 14) 26 日本

お互い初戦を勝利し迎えた2戦目。序盤から緊迫した試合展開になる。日本は野村が先制し、岸川・宮崎らの得点で11分まで6対5と1点リードする。中盤は富田のポストやGK高木の好セーブから豊田が速攻を決めるなど15分過ぎに10対7とリードする。しかし、サウジアラビアのタイムアウトを境に、4連続失点で10対11と逆転されてしまう。その後、門山らの得点で加点するものの、リバウンドが相手に渡ってしまう不運もあり、前半を12対15の3点ビハインドで折り返す。

後半、反撃したい日本だがシュートが決まらず、逆に連続失点で13対20とリードを広げられてしまう。しかし、相手が退場者を出す間に東長濱・宮崎・武田と連続得点で17対20の再び3点差に戻す。その後も何度かあったパワープレーのチャンスに点差を詰めることができず、残り5分で21対26。残り3分を切り、永島・野村・岸川の連続得点で追いつこうとするが時間が足りず26対28の2点差でタイムアップ。後半だけでサウジアラビアは7回も退場した

のに、このチャンスを活かすしきれなかった。

【得点】6点：豊田、4点：宮崎・岸川、3点：東長濱・野村、2点：富田・武田、1点：永島・門山

▼本戦ラウンド第3戦 (2月15日)

日本 36 (21 - 11、15 - 12) 23 イラン



直前の試合でサウジアラビアとカタールが引き分けたため、準決勝に進むためには絶対に負けられない戦い。立ち上がりからアグレッシブな6-0ディフェンスでイランのミス誘うと、宮崎・武田・豊田と3連続得点で3対0とする。14分にシュートミスから連続失点で7-6と1

点差まで追いつかれるが、GK高木の好セーブをきっかけに富田・宮崎の連続得点、さらに23分から岸川・野村・門山末松と4連続得点で18対10とリードを広げる。前半終了間際にも富田・末松の得点が決まり、前半を21対11で折り返す。

前半とガラリとメンバーを変更し臨んだ後半も、3分に門山の得点で23対13と10点差をつける。前半途中からゴールを守るGK坪根も好セーブを連発し、9分過ぎから猪妻・野村らの得点でさらにリードを広げていく。圧巻だったのが20歳の信太。15分、イランに退場者が出る間に、ポスト・カットインと3連続で得点し29対17とする。その後も猪妻・東長濱らの連続得点で25分、34対21。試合終了間際、信太から猪妻へのスクイプレーが決まり36対23で試合終了。本戦ラウンドAグループ2位となり、準決勝への切符を手にした。

【得点】8点：宮崎、5点：信太、4点：猪妻・野村、3点：末松・門山・東長濱、2点：豊田・富田、1点：武田・岸川

▼準決勝 (2月17日)

韓国 30 (14 - 12、16 - 11) 23 日本

宿敵・韓国との対戦は宮崎・豊田の連続得点で始まる。8分、3対4と1点リードされている場面からGK高木の連続セーブで流れを引き寄せ、岸川・武田・野村の3連続得点で6対4とリードする。この流れでゲームを進めたい日本だったが、パスミスからの失点で6対6の同点に追いつかれると、シュートミスも重なり14分から5連続失点などで、22分に8対14と6点差をつけられてしまう。ようやくディフェンスが機能した日本はGK高木の連続セーブもありここから前半終了まで、韓国を無得点に抑える。その間に門山・豊田・末松らのシュートが決まり、前半を12対14の韓国リードで折り返す。

後半、良い流れを継続したい日本はシュートチャンスをつくるがゴールが決まらず、逆速攻など3連続失点で12対17とされると、悪い流れは続き、6分にも3連続失点で9分に13対20と7点差をつけられる。その後、末松・野村・門山らのカットインや永島のポストなどで得点するが、点差はなかなか縮まらず23対30でタイムアップ。アジア選手権の決勝進出はなかった。

【得点】6点：豊田、4点：末松、3点：岸川・門山・野村、1点：宮崎・武田・永島・信太



KIRIN

スポーツの感動を、ありがとう!



飲酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。お酒は楽しく、ほどほどに。

www.kirin.co.jp
キリンビール株式会社